

## 安全性要約書

### ポリカルボン酸ポリマー

この安全性要約書は、一般社会へ化学物質の安全性情報の概要を提供するものです。この文書は、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全データシート (Safety Data Sheet) に代わる文書として作成されたものではありません。また、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。

#### 1. 物質の特定

カテゴリー名: ポリカルボン酸ポリマー

化学物質名: アクリル酸重合物のナトリウム塩  
アクリル酸とマレイン酸共重合体のナトリウム塩

CAS 番号: 9003-04-7、52255-49-9、60472-42-6

#### 2. 使用・用途と適用

ポリカルボン酸ポリマーはアクリル酸の重合体、およびアクリル酸とマレイン酸の共重合体の塩であり、主にナトリウム塩として流通しています。このカテゴリーのポリカルボン酸ポリマーは衣料用洗剤、台所用洗剤に配合され、一般家庭で幅広く使用されています。

ポリカルボン酸ポリマーは工業用途では顔料分散剤、増粘剤として使用されています。

#### 3. 物理化学的特性

ポリカルボン酸ポリマーの代表的な構造として、ポリアクリル酸ナトリウム塩 (P-AA) (分子量 1,000~70,000)、ならびにアクリル酸・マレイン酸コポリマーナトリウム塩 (P-AA/MA) (分子量 15,000~70,000) の物理化学的特性について、米国環境保護庁のコンピュータソフトウェア EPI suite 4.11 を用いて計算した結果を以下に示します。

ポリアクリル酸ポリマーの物理化学的特性

項目	代表構造	
	P-AA	P-AA/MA
分子量	1000-70000	15000-70000
融点 (°C)	>150°C(分解)	>150°C(分解)
沸点 (°C)	適用されない	適用されない
蒸気圧 (Pa, 25°C)	適用されない	適用されない
水溶解度 (g/L)	>400	>400

#### 4. ヒト健康影響

消費者: 有害な影響はないと考えられます。

作業者: 短期および繰り返し暴露による毒性は示さないと考えられます。

アセスメント項目	結果
急性毒性：経口/経皮	経口/経皮暴露後の毒性はありません。単回暴露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
刺激性/腐食性：皮膚/眼	入手可能なデータから、刺激性/腐食性は無いと考えられます。
感作性	入手可能なデータから、皮膚感作性は無いと考えられます。
繰り返し暴露による毒性	実際上、長期または繰り返しの経口暴露により毒性を示さないと考えられます。
遺伝毒性	入手可能なデータから、遺伝毒性はないと考えられます。
発がん性	入手可能なデータから、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性はないと考えられます。

#### 5. 環境影響

魚類、水生無脊椎動物、藻類に対する試験結果から、ポリカルボン酸ポリマーは水生生物に対する毒性はないと考えられます。一般的な高分子の情報から難分解性を示すと考えられますが、下水処理等により除去されると考えられます。また、食物連鎖における濃縮の可能性も低いと考えられます。

アセスメント項目	結果
水生毒性	水生生物に対する毒性は示さないと考えられます。
生分解性	難分解性と考えられます
PBT / vPvB 注)	PBT/vPvBには該当しません。

注)

PBT = Persistent, Bioaccumulative and Toxic (残留性・蓄積性・毒性を有する物質)

vPvB = Very Persistent and Very Bioaccumulative (高残留性・高蓄積性を有する物質)

#### 6. 暴露

##### 消費者

消費者は洗剤の使用によりポリカルボン酸ポリマーに接触する可能性があります。ヒト健康に有害な影響を示さないことから、推奨される用途で使用される場合、消費者に対するリスクはありません。

ん。しかしながら常に使用前に製品情報を参照し、ラベルや能書に記載されている使用上の注意に従って下さい。

### 作業

ポリカルボン酸ポリマーの生産設備や多くの取り扱い設備では、この物質による暴露が発生します。また、この物質を取り扱うメンテナンス、サンプリング、テストや他の作業においても暴露される場合があります。教育を受け訓練された作業者のみが、この物質を取扱います。各製造設備では、不必要な暴露を避けるためにゴーグルや手袋、防塵マスクなどの安全防具の設置と共に、作業者向けの訓練プログラムや適切な作業手順を定めています。作業者は**Safety Data Sheet**に記載されている応急措置に従う訓練を受けることが求められます。

### 環境

この物質は広範囲にわたり使用されているため、消費者用製品の使用に伴う排出と同様、製造、準備・取扱い・貯蔵、配合など工業的に取り扱う場所からも排水処理施設へ排出されます。しかしながら、この物質は排水処理施設において効率的に取り除かれると考えられます。排水中にわずかに残った場合でも、水生生物に対して毒性は示さないと考えられます。さらにこの物質は食物連鎖において濃縮されないため、環境経由のヒトへの暴露は懸念されません。

## 7. 推奨リスク管理措置

化学物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認して下さい。手や皮膚の保護のために適切な耐化学薬品手袋を常に着用し、眼の保護具を装着して下さい。吸入を防ぐため適切な防塵マスクを装着して下さい。化学物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないで下さい。皮膚(または髪)に付着した場合、汚染された衣類を脱いで下さい。多量の水と石鹼で洗い、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けて下さい。眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けて下さい。眼刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けて下さい。

この物質を含む排水は、この物質を除去するため、排水処理設備を通して下さい。粉じんの発生が予測される作業環境では、適切な防塵・集塵設備を設置して下さい。大気中への放出は予想されないため特別な措置は必要ないと考えます。

## 8. 法規制情報/分類・ラベル情報

GHS に基づき、化学物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険性に従って分類されています。この危険性の情報は、工業製品では、特定のラベルと **Safety Data Sheet** によって伝達されています。GHS では化学物質の暴露が想定される対象者（作業者、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険性をより理解ができるように努めています。

ポリカルボン酸ポリマーは GHS 分類に基づくラベルは付与されません。

製造、販売、輸送、使用、廃棄に関わる法令は、国や地域によって異なります。詳細についてはサプライヤーから提供される **Safety Data Sheet** を参照して下さい。

## 9. 結論

ポリカルボン酸ポリマーは、難分解性と考えられますが、水生生物に対して毒性を示さないことから、環境へのリスクは懸念されないと考えられます。PBT/vPvB の評価結果から、この物質は PBT/vPvB

には該当していません。ポリカルボン酸ポリマーの短期および繰り返し暴露による毒性は示さないと考えられますが、作業者は標準的な安全管理手法に従い、**Safety Data Sheet** を参照する必要があります。消費者に使用上のリスクはないと考えられます。

## 10. 連絡先

この物質や安全性要約書に関する詳しい情報については、以下の URL による「お問い合わせ（ケミカル製品）」をご利用ください。

会社名	花王株式会社
URL	<a href="https://ssl.kao.com/jp/chemical/">https://ssl.kao.com/jp/chemical/</a>

## 11. 用語集

ハザード	ヒト健康や環境への有害性
GHS	化学品の分類と表示に関する国際調和
急性毒性	単回暴露による有害な影響
感作性	アレルギー誘発性
変異原性	遺伝子に変異をもたらす影響
慢性毒性	繰り返し暴露による有害な影響
生殖毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
発がん性	がんを引き起こす作用影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
生物濃縮性	環境における物質の濃縮性

## 12. 発行日

2019年6月14日